中原消防団
広報誌
第12号
発行 平成23年7月
題字 中田　隆

翔太（しょうた）

第40回中原消防団消防大会開催

大戸分団 総合優勝

小型ポンプ操法 一般競技ともに

平成23年6月12日(日)、等々力緑地公園催し物広場にて「第40回中原消防団消防大会」が開催され、多くの来賓・地域の方々に日頃の訓練の成果を披露することが出来ました。

中原大会は昭和45年より小型ポンプ操法のみで実施され、第4回大会（昭和49年）から一般競技が加わり、第19回大会（平成2年）に総合優勝（中原消防団ＯＢ会長賞）が新設されました。

写真 右上：一番員 横山団員　右下：指揮者 田辺班長
左上：二番員 原 団員　左下：三番員 成田団員

大会成績

総合優勝
大戸分団

一般競技の部

優　勝	大戸分団
準優勝	住吉分団
三　位	玉川分団
三　位	中原分団

小型ポンプ操法の部

優　勝	大戸分団
準優勝	丸子分団
三　位	住吉分団

●喜びの声●

見事、優勝した大戸分団操法選手の喜びの声を紹介します。

指揮者　田辺義徳班長
（神地町内会）

初めて指揮者として大会に出場しました。（前回は三番員でした）何よりも訓練の重さを痛感しました。分団の皆様には御指導・御声援をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。そして優勝を、ありがとうございました！

一番員　横山邦義団員
（下小田中五丁目町会）

昨年四月に入団したばかりで、一年後に一番員で（なんで僕が一番員と思いましたが）優勝できたなんて夢のようです。感激しています。皆様のおかげです！

二番員　原　清郊団員
（神地町内会）

前回は一番員で、今回は二番員で。

大戸分団のチームワークのおかげで優勝できました。ありがとうございました。

三番員　成田幸久団員
（下小田中三丁目町会）

指導者及び団員の皆様のご指導のおかげで優勝させていただき、心からありがとうございます。大会後、初孫も生まれ、一生のいい思い出になりました。

皆さんおめでとうございました。

筒先員の交替

昭和45年10月19日、今と同じく等々力催物広場で第一回中原消防団操法大会が開催されました。今日まで多くの団員が大会に向けた訓練の中で消防技術の研鑽に励み、団員相互の団結や郷土愛護の精神を身につけてきました。

そのように大会は結果が全てではありませんが40回の節目として今までの各分団の成績を掲載いたします。がんばろう　我ら中原消防団！

中原消防団消防大会優勝回数

分団名	小型ポンプ操法	一般競技	総合優勝
中原分団	4回	6回	0回
大戸分団	16回	8回	13回
住吉分団	6回	20回	9回
玉川分団	6回	2回	0回
丸子分団	8回	0回	0回

各団体表彰

中原防火協会会長賞	総合優勝	大戸分団
中原消防団ＯＢ会会長賞	総合優勝	大戸分団
小隊訓練競技優勝		住吉分団
川崎北ロータリークラブ会長賞	小型ポンプ操法優勝	大戸分団
セレサ川崎農業協同組合長賞	一般競技優勝	大戸分団

（大会記事二面へ続く）

消防大会を終えて

中原消防団長
田中　実

本大会が東日本大震災直後に行わなければならないことに胸を詰ませ、心が痛み被災された方々や多くの国民が不安を抱くなか、団員皆が一つになり訓練に励み家族や地域の皆様にご声援を頂き無事終了することができました。そして日々ご支援いただきました中原消防署の皆様をはじめ多くの方に感謝申し上げます。

私たちは、東日本大震災と言う多くの国民が経験したことのない被害を経験致しました。団員に課せられた崇高な任務を更に再認識し、区民の皆様と共に早急に地域の防火・防災を見直し、団員一同訓練を重ね一致団結し地域に誇れる中原消防団としてあり続けたいと思います。

中原消防署長
山口高広

第40回中原消防団消防大会が開催され、平素の鍛錬の成果が遺憾なく発揮され、成功裡に終了できましたことをまず持ってお喜び申しあげます。

心配された天気にも恵まれ、この大会に向け、何ヶ月も前から昼夜を問わず、厳しい訓練を重ねてまいりました団員の皆様、そしてそれを陰で支えてくださった同僚の団員とご家族の皆様に感謝申し上げます。

今年は、3月11日に発生した東日本大震災の影響で、開催についてもいろいろとご意見もありましたが、こういう時だからこそ消防団員の郷土愛の強い気持ちを皆さんに伝え、日頃からの訓練の成果をご披露することが必要であるということから、団長と協議の上、開催させていただくこととなりました。

団員の皆様のきびきびとした、規律ある訓練と操法を拝見させていただき、中原区民の方々も安心したのではないかと思います。

今回の大会の結果を契機に、また、新たなスタートを切っていただきたいと思います。そして、これからも、この訓練で培った技術、団結力をもって、中原区の安全・安心を確保し、防災力の向上にご協力をお願い申し上げます。

第40回中原消防団消防大会

平成23年6月12日(日)
於：等々力公園催し物広場

一般競技優勝者

☆ホース延長・伝令・収納

大戸分団
橋之口　泰　央　団員
（下小田中三丁目町会）
高　橋　則　広　団員
（大ケ谷戸向町町内会）
加　藤　貴　之　団員
（大ケ谷戸小田中町会）

☆応急・救護

住吉分団
女　屋　敏　班長
（木月住吉町町会）
市　川　義　次　団員
（木月三丁目町会）
福　岡　秀　雄　班長
（木月四丁目共和会）

☆防火衣着装

大戸分団
長　島　秀　成　団員
（新城中央町内会）

☆小隊訓練

住吉分団
指揮者　石川　精　部長
（今井南町自治会）

選手宣誓　中原分団 石井貞明部長

応急・救護

住吉分団の小隊訓練

東日本大震災、地域で消防団員は何が出来たのか。

震災当日、我々の地域でも停電や交通網の一時停止、連絡困難などの事態となりました。多くの消防団員も職場や出先からの帰宅が困難にもなりました。その中で消防団員が出来たこと、又地域であった事を報告いたします。

丸子分団

帰宅後すぐに分団器具置場に向かいました。分団長以下5名ほどの団員が参集しておりましたが、連絡が取れないのでバイクで個別に連絡を取っていたそうです。そのため消防署や本団に伝令要員を送るのが遅くなってしまいました。その後、段々と団員が集まり器具置場に待機いたしました。

丸子分団器具置場周辺では幸いなことに、火災、災害、交通事故等もなく又停電している所も各地で在りましたが、器具置場周辺は停電、断水等もありませんでした。

携帯電話等の通信手段が使えなくなり、また渋滞、電車の運行停止などで団員の所在がつかめず団員の確保には苦労しました。その後、徒歩での帰宅者が増え始め、器具置場が綱島街道の側に在るので、道案内や公衆電話の場所、トイレ、休める所等の問い合わせ等に対応致しました。停電の為自動ドアーが開かず帰れないとの相談も増え始めました。団員が役員をしている町会で会館を臨時避難場所として開放したとの情報が入り、そこを紹介もしました。

その後、大きな事故、問題も発生せず、解散の伝達を受けることができました。今回の地震発生では、多くの教訓を得ました。もし、これで火災等が発生していたらと思うと、身が震える思いです。分団としても、災害発生時の対応を再考し、団員一同にも再度周知徹底しなければならないと感じました。同時に停電対策や、長時間に亘る活動の対策も団員一同の知恵を絞り、必要な機器や物品等を器具置場に用意する必要を切に感じました。

（佐藤正義 分団長）

私は消防団員と民生委員、及び町会の防災部長という肩書きを持っています。当日は大きな揺れが収まると同時に、町会に戻り現状の把握の為、町内を巡回しました。倒壊家屋等は無く、最大の被害はお寺の灯籠が落下している事でした。しかし、もうそこには石材店でもある消防団の横山広報部長（当時）が灯籠の屋根を撤去すべく活動していました。

町内の情報を把握すべく町内会館を開放し、災害対策本部としたところで、他の役員、民生委員が町内の情報をもって集合して来ました。私も担当の一人暮らしのお年寄りの家を回り、無事を確認して回りました。

しばらくして停電になった地域のお年寄りが4人、心細いとのことで会館に集まってきました。その後、小学校に避難していた家族4組を我が町会で引き受けると、帰宅出来ない一時避難者が連れてこられました。町会ではその人たちに握り飯と味噌汁を採って貰いました。

まもなく停電は解消され、何人かは帰宅されましたが、遠方の方は電車が止まったままなので帰れません。町会には寝具の用意は無く町会役員の家から布団等持ち寄りましたが、十分でなく、小さなお子さんもいたので風邪を引かせないよう気を配りました。私をはじめ役員の何人かは会館に泊まる事になりましたが、止まらない余震がみんなの不安を増幅させ、眠れないまま不安な一夜を過ごしました。

夜中の2時半に避難している方のご主人が8時間半かけて歩いて家族のもとに帰ってこられ、一緒に泊まっていかれました。翌朝、電車も動きだしたのでみんなに朝食を採って帰って貰いました。何人からかその後お礼状等頂き、お役に立ったことをうれしく思っています。

（石井　学 副分団長）

中原分団

・地震発生、すぐに宮内班・班長の気転により、分団内使用の無線機を分団幹部へ配布。

・川崎市震度5強の報道あり（後に中原区5弱と判明）。中原消防団規定により分団詰所（器具置場）へ参集、警戒にあたる。

・仕事、外出中の為、参集出来ない団員が多数。

・連絡員が消防署内・団本部へ向かう、宮内班詰所を出発、国道409号・府中街道を小杉方面へ行くが渋滞。

・連絡員はオートバイで移動しており、歩行者が多数いたので慎重な運転を心掛けた。

・宮内班詰所周辺では停電なし、小杉方面に進む次第に、宮内一部と府中街道沿の小杉地区一部でも停電、信号機も停電だと知る。歩行者、自転車の方の道路横断等多く、より一層の徐行運転。

・団本部到着、現状報告。

・無線を常備。団本部から詰所へ戻る前に、分団へ無線連絡するがつながらず。高層建造物の電波障害なのか、無線の中継地点（アンテナ）の必要性を感じた。

・等々力緑地においては街路灯が停電、人の姿さえ判別できず、危険と感じる。ソーラーパネル付街路灯の設置が望ましいのでは。

（坂西利秋 班長）

大戸分団

・震災前は温室で仕事中。

・震災時、家族と共に畑に避難。揺れが収まり家の内外の損傷を確認。

・小学校から帰宅途中の子供の迎え。（妻）

・停電により、信号機が消えたため町内会の人たちと交通整理（小学校の下校時間が終わるまで）。

・消防団待機のメールを確認、フル装備で上小田中班器具置場に集合。その後小田中出張所に移動。

・本団の解散指示（一部分団車両を残し）。

・その後、上小田中にて火災出動指令、出動する。

（松原則富 部長）

・震災時、新城神社にて発表会用餅づくり中。

・震災メールにて、下小田中班器具置場に参集、内藤浩由班長、名取聡嗣団員と警戒に当たる。

・電話連絡が取れず、小田中出張所に移動し警戒。

（朝比奈清一 部長）

・震災時、中原街道を車で走行中、信号が消え慎重な運転を心掛ける。

・自宅着（自宅兼店舗）、停電あり、損壊被害なし、家族全員の無事を確認。

・電話連絡できず、上小田中班器具置場に参集。小田中出張所に移動。

・夕方一時帰宅、停電中、家族が余震に備え、非常持出し品の準備を整えていた。

・小田中出張所に戻る。徒歩で帰宅する人々の列、道路の渋滞に驚く。トイレを借りに来る人の多さにも。

・帰る方向が正しいか、多くの人に聞かれる。

・夜九時過ぎ上小田中で火災連絡あり出動。

・十時半ごろ帰宅、家族全員普段着のまま寝る。

（原　孝三 部長）

・大田区の勤務先（病院）で勤務中に発生。消防団員としての活動はなし。患者、職員の避難誘導を実施後に建物・設備の点検復旧作業を行う。電車にて深夜帰宅。

（猪股昌美 班長）

住吉分団

地震発生間もなく、木月班器具置場に田邊分団長をはじめ分団幹部が自主参集をし、警戒にあたりました。市ノ坪班器具置場においても部長・団員が参集。また、井田出張所には井田班が詰めて、警戒にあたりました。

その中で、木月器具置場に隣接する住吉小学校（石堂真理子 校長）への支援活動を分団長の指揮により金子正夫部長、石川精部長を中心に行いました。その時の様子を青木教頭先生より次の様に知らせて頂きました。

●住吉小学校　青木利光 教頭

揺れが大きくなってすぐに放送で、「地震です。」と言った直後に電気が切れま

（四面へ続く）

玉川分団

・ある団員は「ラゾーナに居たが急いで帰宅し参集した。帰宅途中停電で大きな交差点には警察官が立っていました。」

・揺れが落ち着いて家族の安全を確認後、消防小屋へ行った。

・近所の団員同士で声を掛け合い消防小屋へ集合した。

・消防小屋から車両を1/3程出して、消防車を見えるようにした。

・中原街道と綱島街道への道案内が多かった。

・通行人からのトイレの利用が多かった。特に女性が多かった。

・下沼部班の消防小屋前の公衆電話が無料で使えると通行人に知らせたところ、大勢の方が並んでいた。

・平間班に刈宿出張所へ待機命令が出て四名が出向いた。

・ある団員は「一度小屋に詰めていたが、子どもの迎えに車で出かけたところ、午後七時に出て帰宅が午前一時頃になった。」

（集約：野口芳正 部長）

した。揺れが少しおさまった段階で三年生以上が運動場に避難を始め、運動場の中央に整列してもらいました。この時点で近隣の保護者が子どもを迎えに集まり始め、地域の消防団の方も心配して運動場に来てくださいました。

「何か困っていることは。」という言葉に勇気づけられました。

明るいうちに懐中電灯と暖房の確保を職員で手分けをして準備をしました。消防団の方が発電機を用意すると伝えてくれ、体育館に投光機と共に届き、体育館が明るくなったため地域の方が避難してきました。また、ブレーメン通りの保育園とわくわくプラザにいた子どもたちと職員の方々も避難して来られ、避難所として動かざる負えなくなり、消防団の方が災害用備蓄品（毛布、アルファ米）を今井中学校に取りに行ってくれることになりました。さらに、消防団から大型の発電機が届き照明と大型の石油暖房機を動かすことができ、明るい体育館で寒さを凌げ、ひもじい思いをせずにすみました。消防団の方々の協力に改めて感謝します。

住吉分団管内では他に東住吉小学校（渡邊　茂校長）が一時200名を超える避難者がいた事を教職員、町会長、伊藤幸雄元分団長（避難所責任者）から聞きました。東住吉小は停電がなく、インターネット等で知った方や綱島街道を徒歩帰宅の方を多く受入れ、アルファ米の炊き出し（晩と朝食）、毛布、お茶の配布、スリッパ、暖房具調達など教職員、町会役員、民生委員の方が協力し対応にあたり約150名が宿泊。消防団への要請は伊藤元分団長より消防団は災害に備えてほしいとの旨あり活動はせず。

一番困ったのは各方面に連絡が取れないと言う事でした。今後、同様の災害が起きた時には各団員が地元町会との連絡役にならなければなりません。その為にこれからの丸子分団に必要な事は団員を増やす事だと思います。一人でも多くの方が入団してくれる事を目標に活動を続けるつもりです。

（丸子分団　田中裕之部長）

被災された地域の消防団員が自分の命をかえりみず大勢の方を救った姿に心打たれました。私も一団員として負けないよう、消火活動、人命救助の活動・訓練を行っていきます。

（丸子分団　野村謙二部長）

その他、石川県金沢市の実家に帰省中の団員や会社や仕事の出先で深夜に帰宅、または宿泊を余儀なくされた団員も大勢いました。

震災時入団直前であった大戸分団新城班・山口勝良団員の思いを紹介します。（誌面の都合により震災発生時の様子の前文は省略させていただきます。）

夜21時頃同じ会社の社員から、徒歩で帰宅開始する旨連絡があり、私も徒歩で帰宅を開始した。しかし、これは間違った判断だったと今も思っている。

第一に、精神的にものすごく参っていた。津波を生で見てしまった。何も出来ない虚無感が、情報があればあるだけ蓄積していった。更にいろんな人の安否を想像してしまい、苦しくなった。

第二に、薄着だったための寒さから来る不安。当日は、金曜日だったこともあり、特に早々の帰宅は家族の安全が確認できた時点で不要だった。しかし、蓄積した恐怖と寂しさをどうにかしたい一心で、無謀にも徒歩で帰宅を選択してしまった。

最終的に深夜1時過ぎに自宅に到着した。何度か道も間違えた。更に翌二週間程度は、足に筋肉痛が残り、普通に歩くことも辛かった。

消防団には当時入団は決まっていたが、先々本当に自分自身正しい選択が出来るのか？今までピンチでも結構あわてず冷静に判断できていた自分が居たが、初めてそれがとてもちんけな物だと思った。

消防団に入った以上、何も災害が無いことが第一だが、もしもの為の選択肢や、活動への決断を正しく出来るよう今後は訓練にて着実に役立つ人に近づけたらと思っています。

義援金

中原消防団では日本消防協会を通して福島・宮城・茨城の消防団へ義援金をおくりました。又、団員の有志による約15万円を川崎市へ寄付いたしました。

又、消防大会当日も団員が募金活動を行いました。

大会当日の活動

消防作業服を宮城へ

川崎市退職消防職員（ボランティア）からの呼びかけで、現在着ていない作業服を宮城県の消防団へ送ろうとの要請がありました。皆さんに協力していただき川崎市から800着を送ることができました。

叙勲

元・中原消防団団長の大谷正勝様が春の叙勲において瑞宝単光章の栄に浴されました。誠におめでとうございます。

受章

本団・小島光儀庶務部長が消防庁長官章（永年勤続功労章・三月三日）を受章されました。誠におめでとうございます。

団本部人事

四月一日付で変動がありました。

退団・横山秀彦広報部長
新任・田邉晴輝広報部長（前　丸子分団長）
新任・佐藤正義丸子分団長

消防豆知識　熱中症に注意

今夏は電力不足から家庭における節電を求められていますが、健康状態や熱中症対策など健康面への配慮を万全に行い、決して無理をしないようにして下さい。

予防策として、①室温が高い時は無理をせずエアコンを使う ②室内の風通しを良くする ③体を締め付けない楽な服装で外出する ④こまめに水分補給をする―などがあります。特にお年寄りや小さいお子さんに注意が必要です。

編集後記

中原消防団広報誌「翔太」第12号をお届けします。発行にあたり、ご協力に深く感謝致します。

発行責任者　田中　実
編集　中原消防団広報部
広報部長　田邉　晴輝
中原分団　坂西　利秋
峯岸　雅宏
大戸分団　山本　静一
鹿島　秀樹
住吉分団　横山　芳春
田口　眞弓
玉川分団　若島　稔
（写真撮影）
野口　芳正
丸子分団　畑　昭仁
石井　克枝